

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 井戸川のケヤキ

ケヤキは日本を代表する

落葉広葉樹で、松と共に、

日本の樹木の双璧といわれ

ることもあります。北海道

以外の日本各地と、朝鮮半

島・中国・台湾に分布し、

大きいもので高さが30mを

超えることもあります。ま

た、その美しさから、近年

では日本のケヤキが、ヨー

ロッパや北アメリカの公園

や街路樹として植えられる

こともあるそうです。葉は

幅の狭い卵形で、縁はギザ

ギザ、樹皮は灰褐色で年を

とると、うろこの様に、ポ

ロポロと剥がれていきます。

樹皮や根の皮も染料として

使えますが、木材としての

価値の高さは、皆さんご存

知だと思えます。

以前は家の大黒柱や神社・

寺院などに用いられること

が多かったのですが、自然

のケヤキが枯渇しているこ

とから、なかなか一般の住

宅では使うことができなく

なっています。材質として

は耐久性に優れる一方で、

伐採してから乾燥させるま

での間に、大きく反ってい

くので、中途半端に乾燥さ

せた状態で柱に使った場合

に、家を動かすほど反るこ

ともあるなど、使うことが

難しい木材ともいわれてい

ます。しかし、江戸時代には、

材を船や橋げたに使って、

枝を海苔の養殖に使ったこ

とから、幕府が植えること

を奨励したほど、木材とし

て有用なものでした。

枝の広がり美しいこと

から、関東地方では街路樹

として植えられるほか、古

くから屋敷林

として植樹さ

れています。

このことから、

上三川町周辺

の地域の景観

を作っている

木の一つとも

いえ、実際、

周辺でも真岡

市・茂木町・

芳賀町で市町の木となつて
いることから、馴染みが
深い木あることがわかり
ます。

井戸川のケヤキは樹高約

18mで、推定樹齢は270年

ですが、一番の特徴は合体木

といつて何本かの木が結合

した、珍しい形をしている

ということですが。地上約1

mで3本の木が結合し、一

見すると1本の木に見えま

す。ここまではよくある話

なのですが、さらに西側の

一枝が、3.5mも離れた別の

ケヤキと結合しているの

です。4本の木が長い年月を

かけてくつき、現在でも

元気に緑の葉が生い茂る様

子は、仲良く助け合い生き

る家族の姿をみるようです。



江戸時代																			
1751	1750	1749	1748	1746	1745	1743	1742	1741		1740	1739	1738	1736	1735	1732	1729	1728	西暦	
寛延4	寛延3	寛延2	寛延元	延享3	延享2	寛保3	寛保2	寛保元		元文4	元文3	元文2	元文元	享保20	享保17	享保16	享保14	享保13	元号
徳川吉宗死去。	幕府、農民の強訴・徒党などを厳禁。	宇都宮藩主戸田忠盈、肥前島原に移封、島原藩主松平忠祇が宇都宮藩主となる。	竹田出雲「仮名手本忠臣蔵」が初めて演じられる。	築村・鞘堂村より多功村上之原株場の存続願が提出される。	徳川吉宗将軍辞職、徳川家重将軍に就任する。	西蓼沼村の磯川西原地が全村民に分割される。	カンボジアの船、長崎に渡来する。	大山村領主旗本小出朝負の領民11名が江戸にて検見の不正を訴え出る。	※このころ、井戸川のケヤキが植えられる。	一橋家が創設される。	ロシアの探検船、陸奥・阿波・伊豆沿岸に現れる(元文の黒船)。	磐城平藩で元文一揆が起きる。	清国船の年間渡来数が25隻に改められる。	幕府、米価格の下落を防ぐため、最低価格を決める。	この年、下神主村にて干鰯・小糠の使用が一般化していることがわかる。	幕府、加賀藩から15万両借り入れ。	関東地方の農村に菜種栽培を奨励。	8代将軍吉宗、日光社参。関宿通多功道にも13の大名が通行。	できごと